

今年 は 酉年



えと とり
干支の「酉」は「ニフトリ(鶏)」のこと。鶏は人間と最もなじみの深い鳥といえます。

鶏に関する慣用句の「鶏口となるも牛後となるなかれ」は、鶏を小さな組織、牛を大きな組織にたとえて、大きな組織の一員になるよりは、小さな組織でもその頭となることのほうがよい、の意味。

「鶏鳴」という言葉があるように、鶏が鳴くころといえば明け方近く。朝を迎える合図でもあった鶏の鳴き声を聞く機会は、今ではほとんどありません。鳴き声どころか最近はその姿を見かけることも少なくなりました。でも、安城がかつて日本デンマークと呼ばれたころ、この地域は養鶏がとて盛んでした。そのころに作られた歌「安城小唄日本デンマーク節」には次のような詞があります。

「鶏が鳴いても 夜明けじゃないよ

鶏は安城じゃ 鶏は安城じゃ

リンリンパラリトネ 宵もなく」

当時の安城では多くの農家が鶏を飼っていて、その鳴き声が夜明けから日が暮れるまで、あちらこちらで聞こえていたのです。

はつとり
新年の季語「初鶏」。元旦の輝かしい到来を告げる鶏鳴とともに、新しい年をさわやかにスタートしたいものですね。

